

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	52		学校名		茨城県立中央高等学校				課程	全日制			学校長名			江原 忠宏		
教頭名	竹内 智則												事務(室)長名		荻部 隆			
教職員数	教諭	35	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師 実習助手	1	外国語指導助手	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	58
生徒数	小学科				1 年		2 年		3 年		合計				合計			
					男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数					
	普通				58	49	57	98	64	87	179	234	12					
	(普)スポーツ科学コース				25	5	27	12	25	2	77	19	3					

2 目指す学校像

- ・「『知 (virtue) 』の中央」として、地域住民や中学校から信頼される学校
- ・自己を律し、主体的に行動し、何事にも挑戦し、創造する学校
- ・誰にも公平に接し、豊かな心のふれあいができる学校

3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ・自己の将来ビジョンを自己の在り方生き方と関連して捉え、主体的に目標に向かって何事にも挑戦する生徒の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ・多様な進路に対応した教育課程に基づく、基礎学力の向上とキャリア教育の推進
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ・希望進路の実現に向け、学ぶ意欲と挑戦する積極性を備えた生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	- 生徒の多様な進路希望に合わせた授業や課外授業を展開している。 - 生徒の学習に対する取り組みの個人差が大きい。 - A I ドリルの活用率は向上しているが、家庭学習をほとんどしない生徒が3割以上いる。	- 生徒の一人一人の進路のニーズに合わせた授業内容・指導法の工夫改善、課外授業、進路別HRの充実 - 主体的・対話的で深い学びのための授業改善と資格取得の推進 - I C Tの効果的な活用による家庭学習の習慣化
進路指導	- 国公立大学に2名が合格し、4年制大学進学者数は前年度より24名多い76名となり、大幅に増加した。その他、短大進学者は12名と変わらず、専修学校・大学校等進学者は60名、民間就職者が25名、公務員就職者が5名であった。 - 各学年において、生徒一人一人の進路実現を目指し、平常・土曜課外や模擬試験、課題の配信等を行い学力の向上と学習習慣の定着に努めている。各種進路行事を計画的に実施し、進路意識の高揚を図っている。	- 生徒一人一人の高い進路目標の設定 - 大学入学共通テスト、四年制大学の一般入試、国公立大学進学に対応できる学力の養成 - 就職希望を実現する基礎学力の定着・生活指導など幅広い生徒のニーズに対応した進路指導 - 学費、奨学金制度、上級学校卒業後のライフプランまで含めた生徒・保護者への情報提供
生徒支援	- 校舎内では、襟元の乱れなどがみられる生徒が1割程度いるものの、ほとんどの生徒が、頭髪、服装などを遵守している。 - 段階的指導が288件（1年114・2年122・3年52）あり、一部の生徒が、複数回繰り返している。 - 自転車通学者が7割を占める中で、右側通行、並列走行、ながらスマホなど道交法違反をしている場面が見られる。ヘルメット着用率も悪い。	- 主体的に校則を遵守できる意識の向上と公共の場でのマナーの高揚 - 校舎内外の巡回指導や登校指導の充実 - 安全・安心な教育環境の整備と反社会的な行動をする生徒を生まない雰囲気づくり。 - 交通安全教育の充実。
特別活動	- 大きな学校行事では、昨年度は歩く会と芸術鑑賞会を実施する年度であった。歩く会では、学校から茨城空港まで約15kmを、約1割の生徒が清掃ボランティアをしながら歩ききった。芸術鑑賞会は、昨年11月に計画していたが、直前に感染症が蔓延し、今年度の5月に延期となった。 - 部活加入率が、男子は57%、女子は昨年度43%であった。 - 生徒会役員が学校行事の中心として活躍している。	- 学校行事の内容の充実（歩く会、芸術鑑賞会、クラスマッチ等） - 部活動の活性化と強化 - 自主的かつ活発な生徒会活動の展開 - キャリアパスポート活用の推進及び生徒のキャリア形成の促進
働き方改革	- 週休日の部活動の指導も含めると、勤務時間の超過が月45時間を超える教職員が若干名いる。 - 勤怠管理システムの導入により、教職員の勤務時間管理の意識は少しずつ高まっている。	- 業務量の適切な管理に努めるとともに、勤務時間管理の徹底及び超過勤務の時間の削減 - I C Tの活用、業務見直し等による業務削減と軽減 - 教職員一人一人の意識改革とともに、組織的な取組の推進

5 中期的目標

- ・ICTの活用と、多様化した生徒の学習意欲を喚起するための指導方法の充実を図る。
- ・生徒の多様な進路選択を実現するために、個に応じたきめ細かな進路指導を行う。
- ・生徒指導の一層の充実を図り、規律正しい行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校作りを目指す。
- ・活力ある学校づくりのために、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の充実を図るとともに、部活動の充実と強化を図る。
- ・教職員一人一人の意識改革を促し、「茨城県県立学校の教育職員の適切な管理に関する規則」の遵守に努め、長時間勤務を是正する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 生徒の主体的な学習を促す授業による「学力」の向上	(1) 個々の進路希望に応じて適切な学習指導を行う。 (2) 授業改善に取り組み、教員の指導力向上に努め、分かる授業を展開する。 (3) 生徒の資格取得を促し、学力向上を図る。 (4) AIドリル等のICTを活用し、より効果的な学習環境を整える。
2 生徒の多様な進路選択をサポートする個別指導の充実	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより高大接続改革に対応する学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。
3 安全・安心な教育環境の充実と事件・事故の未然防止、早期発見、早期解消	(1) 安全・安心な生活環境の充実を図る。 (2) いじめ等の事件・事故の未然防止、早期発見、早期解消に努める。 (3) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。
4 ホームルーム活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進	(1) 生徒が自主的、積極的に参加できる学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の活性化を目指す。
5 働き方改革の推進	(1) 業務量の適切な管理のため、学校組織自体や各種委員会の在り方を検討し、運営の改善を図る。 (2) 勤務時間の適正な管理及び時間外勤務削減に向けた業務改善を行う。
6 キャリア・パスポートの活用	(1) キャリア・パスポート活用の推進及び生徒のキャリア形成の促進
7 授業改善の推進	(1) 授業改善推進委員会を設置し、年間を通した研修（異校種参観等）を行い、授業改善に取り組む。 (2) 「ICTの効果的な活用」と「主体的・対話的で深い学び」を目標とした授業実践に取り組む。 (3) 学校評価に係る生徒による授業評価で「授業満足度」の割合3.5以上を目指す。